

## 「彩夏ちゃんへ」

さや・あみの母（神奈川県横浜市／女性）

あなたと別れてから9回目の春がやってきました。

生まれてきたあなたは、目を開けることなく、声を出すこともなくママの元を去っていったね。ママは沢山、沢山泣いたから、目が腫れて視界が半分になり、見るもの全てが灰色で曇って見えた。外に出ると風がビュービューと耳元でうるさく唸り、歩くのを邪魔した。いつもと同じ場所を歩いているのに、どうしてこんな風になってしまったのだろうとまた涙が出てきた。

でもね、今はすっかり晴れた空を見渡せる。北風が春風が変わっていくのもわかる。

あなたが生まれて退院する日、赤ちゃんを抱っこして帰れなかったママは、一人ぼっちの気分だった。タクシーの窓から見えたハナミズキの花がきれいに咲いているのも、これから毎年この花を見る度に悲しい気持ちになるんだなと思っていた。ママのお腹から出て行ったあなたがもう二度と帰ってこないと思うと、無理やりにも連れ戻して、もう一度お腹に入れてしまいたいと思った。あなたはお腹には戻って来なかったけれど、ママの胸に、心には戻ってきてくれたね。

「今年も桜がきれいに咲いたね！」

ママはあなたと二人で桜を見ている。5月になれば、またハナミズキが咲くことでしょう。ハナミズキを見ると、お腹にいたあなたとの二人の時間が蘇る。今はもう一人ぼっちだったなんて思わないよ。

最近はおあなたの妹の世話で忙しいけれど、ママはいつもあなたと一緒にだと思っている。妹のことを怒ってばかりで、あとでいつも後悔するママのこと、きつと「怒りんぼやめたら？」って笑っているよね。

彩夏ちゃん、これからもずっとママの胸の中にいてね。

今年もハナミズキが咲くのが今から楽しみだね。

